

産業経済常任委員会 視察研修

産業経済常任委員長 鵜飼 八千子

- 1、 研修日 平成 25 年 8 月 1 日（木）～ 2 日（金）
- 2、 研修先 バイオマスツアー真庭（岡山県真庭市）
つやま新産業創出機構（岡山県津山市）
- 3、 研修参加委員 鵜飼委員長 松山副委員長 石原委員 矢野委員
立入委員 山中委員
- 4、 研修内容
 - ・バイオマス事業について
 - ・産学官連携による産業振興について

真庭市の概要

- ・岡山県北部に位置し、北は鳥取県に接している。平成 17 年、9 町村の合併により誕生し、総面積は約 828 km²。岡山県の中で最大であり、市内の森林面積は約 79%と、自然が豊かなまちで、人口約 4 万 9 千人である。

バイオマスタウン真庭

- ① 古より真庭は、西日本の木材需要を支える「製材業」など、森林の恩恵に恵まれてきた。現在、豊富な木質資源を余すところなく利用し、また、森林育成へと還元していくため、未来を見据えた長期的な「バイオマスタウン構想」が、産官学一体となってバイオマスタウン真庭の輪を構築し、展開されている。
 - ② 1964 年の木材輸入の完全自由化により、外材が大量に輸入され、国内の木材価格は大きく下落した。その中で真庭では、放置された林地残材をバイオマス資源として活用していこうと様々な取り組みを実践している。
 - ③ 真庭のバイオマスタウン構想の大きな特徴は、地元の民間事業者達の活動が主体となってスタートした点にある。そこに行政や産学連携のしくみが「協働」の形で参画し、体制が整備された。
- 1993 年、地元の若手経営者や各方面のリーダーたちが中心となり、「21 世紀の真庭塾」という組織が立ち上がり、現在のバイオマスタウンの推進力となっている。

視察研修

① 木質ペレットの製造

製材工場の木くずから新しいエネルギー「ペレット」を製造。

ペレットとは、おがくずやかんなくずなどの製材廃材といった木質系の副産物を粉砕・圧縮し、成型した固形燃料のこと。

② 真庭バイオマス集積基地

林地残材や製材所で発生する端材、樹皮を利活用することを目的として建設。素材生産者や、山主などの市民によって持ち込まれた未利用材を、原料や燃料として加工している。

③ 真庭市役所本庁舎

2011年4月開庁。すべて真庭産の木材で、家具、内外装材などにふんだんに活用。周辺の歩道などは木片コンクリートで舗装。

バイオマスボイラ（チップボイラ・ペレットボイラ）を活用している。

感想

- ・真庭のバイオマスタウン構想では、民間主導で事業が展開されている。1993年に「真庭塾」が誕生し、2000年に行政連携となり、現在、行政と役割分担されている。地元の民間業者達の活動が主体となってスタートした点に注目したい。バイオマスタウンツアーでも協力し合っており、産官学一体となつての取り組みに学びたい。



真庭バイオマス集積基地



真庭市役所本庁舎

津山市の概要

- ・人口 10 万 7 千人で面積 506 km²。農家数 4103 戸で、水田 4000 h a。

つやま新産業創出機構の取り組みについて

① つやま新産業創出機構とスタンス

設立：平成 8 年 4 月

事務局：津山市役所東庁舎 1 階

職員：常駐職員 7 名（産業活性化アドバイザー 3 名（工業・食品・農業・マーケティング）、津山市新産業創出課ブランド係 4 名、半常駐 1 名（津山商工会議所））

予算：2500 万円うち津山市補助金は約 70%

スタンス

行政とは異なる「選択と集中」で、意欲のある企業者等を対象に産官学民連携により、新技術・新商品開発から販売までを一体的に支援

① ステンレス産業クラスターの形成

「津山を日本のステンレス加工基地へ」

② 産地づくりと食料産業クラスターの形成

小麦の産地づくりと農商工連携による商品開発

津山ロールの開発

ブランド化とつやま夢みのり・つやま夢みのり認証制度

感想

- ・行政とは異なる「選択と集中」で、意欲のある企業者等を対象にされていること。そこに、産官学民連携により、新技術・新商品開発から販売までを一体的に支援されている。PR も、メディアをうまく使われている。
- ・商品開発には、経済的支援が必要だが、模索していく事業への補助のあり方が課題である。
- ・異分野への開拓がむずかしい。縦割りがあり、その連携にエネルギーが必要になる。

